

筆山

第71号 / 2021年12月

土佐中・高等学校同窓会
関東支部会報

編集人 / 中平 公美子 (59回)

発行人 / 関東支部幹事長 市川 直介 (53回)

関東支部ホームページ :

<http://www.tosako-kanto.org/>



どんなにいてもつながれる100年目のZOOM同窓会

森山健一 (61回)

2021年の同窓会は、会場を設けず全てオンラインで開催しました。初の試みでしたが、ご参加頂きました皆さま、いかがでしたか？

関東のみならず高知、大阪、広島や岐阜など各地から、そしてスウェーデン、オーストラリアなど海外からも含め延べ120人以上の皆さまに参加頂き、改めて土佐高校同窓生の『絆、つながり』を感じました。

今年の幹事「1の会」メンバーは2月からミーティングスタート。緊急事態宣言中でしたが、同窓会を諦める選択は一切なく、「コロナ禍だからこそ」そして「101年目の挑戦」として「誰でも、どこにいても、いつでも『つながる』ことができるオンラインで開催しよう」ということで全員一致。

さて、オンラインで開催することにしたものの、どう運営していくのか——今回開催できたのは、ZOOM運営全般を引き受けて頂いた筒井先輩(41回)、西さん(81回)のお陰です。ITがちよっと苦手な(?)71回、かなり苦手な61回は当日の司会や裏方を務めることとし、水野先輩(41回)には「美術の高崎先生をオマージュしたデザイン」の案内状を作成して頂きました。約20回に及んだミーティングはすべてZOOMで行い、連絡はメール。我々幹事団も一度も対面で会わないままでしたが、同窓の絆は強く、世代を越えて意見を出し合い協力一致することができました。

そして当日。開始前に私自身のパソコンカメラが作動せず焦りましたが、本番はリハーサルの成果でスムーズに運営。3時間に亘りましたが、多くの皆さまに最後まで参加頂き、新しいカタチの有意義な同窓会ができたと思います。(22人が参加した61回は閉会后もブレイクアウトルームで近況を報告し合い盛り上がりました。)

ご参加頂いた皆さま、森支部長、小村校長、講演頂いた江淵誠さん(61回)、筒井諒太郎さん(81回)、山本記央さん(81回)、司会の山崎永理圭さん(81回)ほか登壇頂きました皆さま、ご協力ありがとうございました。

来年は皆さんとリアルで繋がり、盛大に同窓会が開催できるといいですね。また来年お会いしましょう。

来年は皆さんとリアルで繋がり、盛大に同窓会が開催できるといいですね。また来年お会いしましょう。

関東支部だより

関東支部の皆様、日頃は支部活動にご支援ご協力ありがとうございます。

去る10月23日14時から完全リモートにて総会が開催されました。準備段階では、新規感染数が増え続けており、当初よりオンラインのみの開催と決まりました。初めてのZoomの方のために、練習会やリハーサルも数度行われ、万全の体制がとられました。

当日は、モニターいっぱい集合写真からスタート。総会、講演会がスムーズに行われました。小村校長には、ビデオにて母校の様子を報告いただきました。講演いただきました三名の方と内容につきましては、本誌でご紹介させていただきます。巻頭の写真からもご参加いただいた方の楽しい、また真剣な様子がわかります。ご準備いただいた回生末尾1の回の皆さまありがとうございました。

* 学年幹事会を行います *

令和4年2月26日

TKPガーデンシティ渋谷にて開催します。

学年幹事の方と回生末尾2の方には、詳細についてご案内をお送りいたします。

「筆山会」 新年会のお知らせ

新型コロナウイルス新規感染者数の減少、
政府の緊急事態宣言の解除を受け、
2022年は通常通り開催予定です。

日時：2022年1月8日(土)
12:00から

場所：代々木倶楽部
渋谷区代々木3-59-9

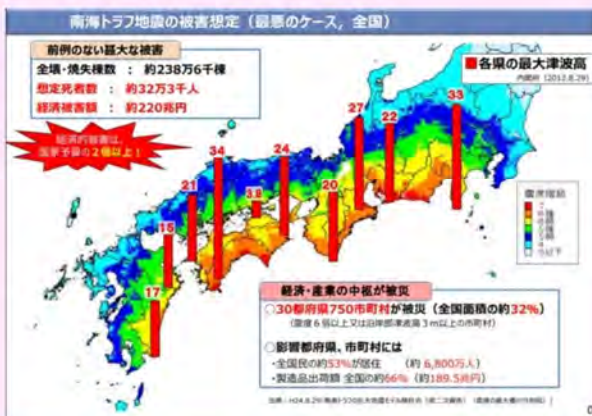


出欠等、詳細につきましては
同窓会HPにて随時お知らせいたします
関東支部HP

<http://www.tosako-kanto.org/>

なお 感染状況の変化に対応し
変更されることもあります。

問い合わせ先 筆山会事務局：
Eメール hitsuzankai@ytsutsui.sakura.ne.jp



南海トラフ地震に備えちょき

高知県危機管理部副部長
江渕誠(61回)



『日本沈没―希望のひと―』を毎週録画をして楽しみに観ています。未曾有の関東沈没という危機に対する政府の動きや人間模様をドラマ化した荒唐無稽のフィクションではありますが、切迫度が増している南海トラフ地震の対策や危機管理を担当している者として、私ならどう行動するかと考へさせられます。

南海トラフ地震は、最悪の場合は超広域災害となり国難と言える状況になると想定されています。関東支部同窓会で行いましたオンラインによる講演では、被災想定や、命を守る、命をつなぐ対策など高知県の取組についてご紹介いたしました。南海トラフ地震では、津波に加えて地盤沈降が起こり、例えば高知市付近では約1.5mも沈降し、元の地盤高に戻るには相当の年月がかかることから、長期浸水が想定されることもお話ししました。事実、昭和南海地震では約一か月も長期に浸水をしています。「高知沈没」は虚構ではなくソフィクションとしてありえるのです。

しかし、対策は実施中です。最悪の事態を想定してハード・ソフトの両面から計画的に取組を進めています。対策は道半ばですが、今後とも希望を持って「高知家」の防災力向上に挑戦し続けてまいります。

皆様も故郷のご親戚等に「南海トラフ地震に備えちょき」と呼びかけ、自助、共助に取り組んでいただくことを切にお願いいたします。

最後に、東日本大震災から10年という節目に、講演の機会をくださった関東同窓会幹事の皆様に改めて感謝申し上げます。

高知県「防災アプリ」(令和2年度から運用開始)

インストールはこちら!



英国スポーツ行政留学体験 筒井諒太郎 (81回)



国家公務員(文部科学省)としてイギリスに昨年まで二年間留学する機会をいただき、現地でスポーツ政策を勉強しました。スポーツ政策というと、イメージしづらいかと思いますが、実際のところ国からスポーツ分野で職員を派遣する前例はほとんどなく、人事課の説得には苦労いたしました。

東京オリンピックが開催されたばかりで、ご関心のある方もいると思いますが、国のスポーツ行政の予算のほとんどは競技力向上分野に向けられており、イギリスやオーストラリアがこの分野では先進国なのですが、日本はオーストラリアの選手強化政策に大きく影響を受けています。このように非常に国際性の強い政策分野であったことが留学をしてみようと思ったことやキャリアの軸にしたいと思った大きな理由です。

留学先はフバラ大学、ロンドン大学バークベック校というスポーツ分野で有名な大学に在籍し、主にスポーツインテグリティ政策(例えばアンチドーピング)の日英比較研究に取り組みました。研究のアウトプットである修論では学部から賞もいただき、大変充実した留学生活を送ることができました。イギリス人の指導教官が親日家ということもあり、帰国後も日英共同研究を続けようといってくださり、来年からは国内の大学の博士後期課程に進学し、引き続き彼と研究を続ける予定です。

スポーツ政策分野の国際性を留学で強く実感するとともに、行政官としてだけでなく、学術の分野でも交流する重要性を感じました。

今後は国際スポーツ行政の分野で活躍できるよう努力を続けていきたいと思います。



男性の育休取得を増やしたい！ 山本記央 (81回)



今年6月に第一子となる男の子が生まれ、現在1年間の育児休業を取得中です。同窓会では育休を取得した経緯や、実際に取得して感じたことについてお話をさせて頂きました。

取得率が昨年過去最高を記録するなど男性の育休取得は徐々に市民権を獲得しつつありますが、およそ3割が5日未満の取得に留まるなどまだまだ課題も多いです。男性が育休を取得しやすくなるには、パタニティ・ハラスメントの撲滅をはじめとした経営者や管理職の意識変革が不可欠ですが、一方で労働者自身も大企業でないと取得できないと思いついていたり、職場に対する過度な気遣いから取得を躊躇している実態があるのではないかと感じています。

私自身は従業員約20名の今の職場で働き始めて2年目で男女問わず職場で初めての育休取得者となりましたが、取得にあたっては長期間職場を離れることで生じ得るブランクを最小限に抑えるべく、定期的な面談の実施など様々なアイデアをこちらから職場に提案しました。こうした経験を踏まえ、家族との時間を大事にしたい、妻のキャリアを尊重したいという強い意志があれば、大企業でなくとも、前例がなくとも男性でも長期間育休が取得できるという事実を今後もアピールしていきたいです。

男性の育休取得は女性のキャリア形成とも地続きの裾野の広い問題です。ひとりでも多くのパパの育休を取得したいという希望が叶うよう、皆さんもそれぞれの立場から応援して頂けたら幸いです。

第9回 フリーランス書店員 久禮亮太さん(69回)

書店員になった理由を教えてください

学生の頃は、バンド活動と書店アルバイトばかりの生活を送っていました。本屋が好きだったんです。子供のころから学校をサボっては愛宕商店街の太平洋書店や帯屋町の金高堂、お城前の富士書房などに入り浸っていました。26歳の頃、音楽では食ってはいけないうと限界を感じて、我が家のように過ごしていたバイト先に就職すればそれはそれで楽しいかなと思いました。そこは早稲田大学近くのあゆみBooksという書店だったんですが、可愛がってくれていた店長が意外にも雇ってはくれず、三省堂書店の契約社員のを自力で見つけました。1年後、古巣あゆみBooksの新店舗立ち上げに呼ばれて正社員として戻り、2014年まで通算18年ほど勤務をしました。

書店員の仕事とはどんなことですか

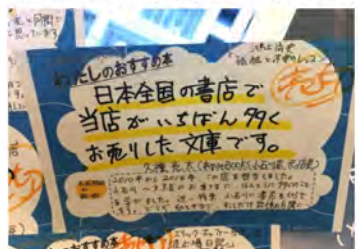
書店員は日々荷さばきをして書籍や雑誌を棚に並べるわけですが、その物量も作業も結構多いんです。次々と新刊が届くので、それを平台に置こうと思ってもスペースを作り出すのは簡単ではありません。平台に新たに置く本と残す本、平手から外して棚に移す本をできるだけ早く見極めたいんですが、機械的にではなく、本の内容やお店の地域性を踏まえて判断して品揃えのバランスを取りたい。どの本も長く読み継がれてほしいけれど、ある種の「賞味期限」を意図的につけて見切りをつけていく必要があります。今どきの小売業ならPOS（売上データ管理システム）で判断するのが一般的ですが、それだけでは十分ではありません。私はスリップ（本を挟まれてい



る短冊型の伝票)を活用して、売場の現状を把握しつつ売れたものから顧客像を読み解くことで、もっと「お客様に寄り添った本屋」を目指しています。レジで本をお売りするとき、スリップを抜き取ってお渡しします。本は旅立っても、スリップは本の分身として僕の手元に束になって残ります。この束にはお客様のご興味や悩みごとがたくさん詰まっていて、お客様の詳細な人物像を想像する手がかりになります。読者の気持ちを掴めれば、一見まったく違ったジャンルの本たちの間に繋がりが見えてきます。こうした読み解きを続けていると、次にどんな本が売れるのか段々とわかるようになります。書店には地域性があると聞きますが、あゆみBooksでは早稲田、五反田、綱島、小石川と異動を経験したのですが、土地柄や客層も本当に様々でした。たとえば2010年頃の五反田は渋谷に続くITベンチャー企業の拠点となりつつあり、プログラマーやサーバ管理に携わっているエンジニアが書店にも多く来店していたので、そうした技術書がよく売れました。その売れ方をスリップで追うと、仕事本に混じって彼らのプライベートな面も見えてきます。たとえば、理系のプロフェッショナルは、意外と感情に訴える泣ける小説をよく買ってくれるとか。五反田はとにかく売れる店だったので、手応えを掴みやすくてたくさん勉強させてもらいました。

小石川店は評判のいい書店でしたね
70坪の店で、書店員は新刊以外にも自分がおきたい本を少しは置ける余裕があり、お客様は疲れずに全体を見て回れる。ちよんどのいい大きさだったと思います。小石川界隈は文京区の名の通り、大学から小学校までたくさんあり、教員、研究者もいれば、子どもの教育に関心の高い夫婦も多い。大人になっても学ぶことが好きな方が多い土地柄なので、本屋にも知的な刺激を求める期待値が高いんです。そのぶん、他店ではできない冒険的な品揃え（たとえば哲学本を大きく仕掛けることなど）もしやすいんです。とはいえ、どの街の書店であっても品揃えの冒険を今よりもっとやっていたと思います。幸い、新刊書店は在庫を返品できる制度で成り立っている（その問題点もありますが）ので、書店員には失敗も許されています。たくさんチャレンジングして予想的中したときにはガッツポーズも出してしまう。そんな体験を、若い同業者には体験してほしいと思います。

駅前本屋さんが減ってきていますね
駅前の好立地に大型店を出しさえすれば売上を取れるという出店競争の時代もありましたが、新刊書店は利益率の低い構造で、売上が下がると高い賃料を払って店舗を維持するのが途端に難しくなります。この15年間で、書店は2万超から1万弱にまで減りました。経営者の高齢化やお得意様の減少（美容院が雑誌からタブレットに切り替える、教科書を納入する小学校の児童が減るなど）といった問題が、街に古くからある書店に降りかかっています。



住宅街に書店の灯り



- PROFILE**
- 1994年 土佐高校卒業(69回)
 - 1996年 あゆみBooks早稲田店のアルバイト書店員となる
 - 2000年 三省堂八王子店に就職 契約社員として勤務
 - 2001年 あゆみBooksの正社員となる 新店舗立ち上げから 小石川店店長時、わざわざ行って みたい書店として話題となる
 - 2014年 あゆみBooksを退社 フリーランス書店員となる
 - 2017年 『スリップの技法』を出版
 - 2018年 小石川に 新刊書店「Pebbles Books」をオープン
 - 2021年 「Pebbles Books」を後進に託し 現在は書店コンサルタントとして活動

おすすめ本や近況についてはTwitterで





移動本屋さんでのイベント参加も
子どもにはアカウントを作れない。ウェ

子どもにはアカウントを作れない。ウェ
子どもにはアカウントを作れない。ウェ

子どもにはアカウントを作れない。ウェ
子どもにはアカウントを作れない。ウェ



つながる

一方で、ニューウェーブの若い書店も増えていて楽しみなんです。問屋から書籍を卸すための物流コストが年々高騰しているのがネックで、なかなか大きな市場にならないという問題もあります。新しいスタイルの書店といえば、葛西書店は代表格のひとつですね。高知の中万々のTSUTAYAは、面白い売場作りが全国の書店員の間でも有名です。TSUTAYAグループは組織ですが、最近の個性的な書店は零細個人事業主がほとんど。それでも従来の大型店と役割分担して共存できていると思います。

フリーランスの書店員の仕事とは？
「フリーランス書店員」なんて名乗っているのは業界で僕だけだし、久禮書店というのも屋号だけで店舗はないんです。2014年末に勤めを辞めて、いざ新年を無職で迎えたとき、肩書きだけでも付けて前を向かなければと、半ばハッタリで名乗り始めました。実際の仕事内容は簡単といえば書店の実務コンサルタントです。つまり、経営コンサルというよりは現場を経験してきた書店員同士として具体的なアドバイスをする。世間では「書店が減った」といわれるものの、まだ多くのチェーン書店が街々にあります。この仕事を今後も希望を持って続けるスタッフさんたちがいます。彼らに書店員

としての専門技能を具体的に伝えていきたいんです。
正直、売上の減少や雑務の増加にあっぶあつぷしているのが日々の現実です。それでも、たとえ会社が傾いても自身のスキルで業界を渡り歩いていけるような書店員を一人でも増やしたい。僕自身の店を持つ選択も無くはないのですが、自店に掛かりつきりになるよりは複数のチェーン書店の改善に協力したほうが、結果的に多くのお客様に本を届ける仕事になる。今は考えています。



書店入口の黒板

書店員さんの上手な利用術を教えてください

もうひとつ僕にとってやりがいを感じるのは、書店の経営者さんと現場スタッフの通訳者という役割です。社長と社員意思疎通ができていない、「うちは仲良いよ」と疑問なく言い切れる会社はなかなかありません。本屋などという儲けられない商売を好きでやっている者同士、分かり合えるはずなんです。経営と実務はそれぞれ違った視点や価値観で行われていて、その間を繋ぐ翻訳というか尺度の変換が必要です。僕の働きかけがうまくいけば、売場スタッフさんの雰囲気が変わり、それはお客様にも伝わる。そう信じて取り組んでいます。

インタビューを終えて

町の本屋さんがある社会的な意味を認識する機会になりました。実店舗は、無意識のうち異なる世代の情報が入ってきます。老若男女が行き来するコミュニティの場です。久禮さんのお話で、私たちの本離れがすすんでいるわけではなく、本を読むには、本を手に取りやすい環境をつくることの大切というお話が印象に残りました。子どもにはいわゆる名著も読んでもらいたいの、書店員さんのお知恵を借りたいと思います。

佐藤彩記子 (81回)



インタビュー写真に使わせていただいた書店は文京区小石川「Pebbles Books」。住宅街に13時から夜22時まで柔らかい光を灯している。立ち上げ時にご自身で塗った壁の色や棚には久禮さんの書店への思いが感じられます。本との出会いを楽しみに、ふらりと訪れてみませんか。(編集人)

都会で子育て

佃 和晃 沙織(83回)

今回は執筆の機会を頂きまして有難うございます。私達は、夫婦揃って土佐校愛が強く、筆山は毎回楽しみに読んでおりましたので、まさか自分達がこのような機会を頂けるなんて！と大変嬉しく思っております。初の夫婦での寄稿という事もあり、対談形式としてみましたので、最後まで楽しんでお読み頂けますと幸いです。尚、普段はバリバリの土佐弁話者の二人ですが、便宜上標準語に変換してお届け致します。



「都会で子育て」してみても良かった事は？

和晃 一番恩恵を感じるのは、親子で楽しめる施設やイベントが充実していることだね。

沙織 うんうん。動物園や遊園地もそうだし、高知だとなかなか観られないようなミュージカルやコンサートにも連れて行ってあげたいな。

和晃 そうだね。あとは、有名な大学や企業、国会議事堂みたいな国の中枢機関が生活圏内にあることも、子供が将来を考えていく中で良い刺激になると思う。

沙織 確かに。あと、子供が生まれるまでは意識したことがなかったけど、とてつもなく広い公園があるのも東京の良いところ！砧公園とか駒沢公園とか。園内にキッチンカーが出ていて、外で子供と一緒にご飯が食べられるのも嬉しい。子連れで飲食店に入るのには気を遣うから。

「逆に大変だと感じる事は？」
沙織 車がないことが不便だなと思う。高知では、車のある生活が当たり前だったから。
和晃 確かに、近所のカーシェアは

たまに利用するけど、自分の車が無い事で日々のちょっとした外出のハードルは上がるよね。ただ、駐車場代だけで月3万円はやっぱり割高に感じるかな。でも、買い物はネットを利用すれば、米やオムツみたいな重い物でも翌日に届くから、その点の不便さはあまりないんじゃない？
沙織 そうね。ただ、例えば100均で買えるような細々した物を、思いついた時にパツと買いに行けたら良いなと思う。あと、東京のスーパーやドラッグストアは通路が狭くて人も多いから、ベビーカーで行くと大変！子供が商品を触ったり、他のお客さんに当たったり。
和晃 そうだね。あと大変で言うと、子供が生まれた直後からコロナが流行りだしたよね。
沙織 緊急事態宣言が出たから、私が出産の里帰りへ長引いたし、和晃が東京から高知へ来ることもできなくなっちゃって、2か月くらい会えない時期があったんじゃない？
和晃 愛くなる息子の姿を見せてあげられなくて、あの時は本当に辛かったな。
和晃 でも悪い事はかりではなかったよね。テレワークになった事で、平日の昼間も子供の成長を近くで見られるようになった。
沙織 それは同感！もちろん仕事だから、基本的には育児を手伝ってもらうことはないけど、そばにいてくれて、もし何かあったら助けてもらえる環境は、かなり心強い。あと、私が育児で大変な姿を24時間見続けていることに、すごく意味があると思う。



「同級生同士の結婚ってどう？」
沙織 結論から言っても最高だね。共通の友達が多くて楽しいし！息子が生まれる前は、たまにホームパーティーもしてたよね。
和晃 あとは、お盆や正月に両方の実家へ一度に帰省できるのが良いね。親に孫の顔をたくさん見せてあげられるし。
沙織 そうだね。なんとなく「同級生のお母さん」って感覚があるし、共通の話題も多いから、お義母さんたちと打ち解けるのは早かった気がする。
和晃 うちの男二人兄弟だから、沙織がたくさん喋ってくれて、両親ともにとてつもなく喜んでるよ。そういうええ、将来高知に帰る計画を、母と勝手に進めてるみたいだけ？
沙織 あ、バシってた？
和晃 子供は絶対土佐に入りたいから！土佐校で過ごした6年間は、私の人生にとってかけがえのない大切な時間だし、一生の友達とも出会えた。昔は、東京にいる土佐メンツで毎週末会ってたな。まあ、酔っ払うといつも同じ話をしちゃうんだけどね。
和晃 同級生で仲が良いのはもちろん、先輩・後輩の縦の繋がりの強さは、卒業してからすごく実感するね。関東支部同窓会には数百人規模のOBが集まるし、大学1年生から80歳台の大先輩まで、みんなで肩を組んで校歌を大合唱するのは本当にすごい事だと思ってる。
沙織 この『筆山』も然り。他校にはなかなか無い文化だからこそ、土佐に入りたい気持ちは分かるよ。



沙織 だよ！そういうえば、息子は土佐弁を話すのかな？
和晃 周りの話を聞いてると、保育園や学校で受ける刺激の方が強いから、自然と標準語を使い始めるらしいよ。そのうち、「お母さん何言ってるか分かんない」って言われるんじゃない？
沙織 そんな事言われたら、めっちゃくちゃシヨックなげやけど！
和晃 でもいざすれば高知に帰るんだから、土佐弁もしっかり教育しておかないとね！
和晃 まあ：将来の事は日本酒でも飲みながらゆっくり語ろうか。こうして夜は更けていくのでした。
和晃・沙織 ここまでお読みくださりありがとうございます。愛する高知を想いながら、引き続き都会での子育てを頑張ってます！



お二人にお聞きしてみました



一般社団法人
土佐婚倶楽部®
TOSAKON CLUB

婚活のお悩みを心を込めてサポート致します
年に数回、**合コン**等やってます！詳細はHPで

代表理事・東京相談室長 織田祐輔 (45回生)
顧問 梅原 毅 (45回生)
顧問弁護士 浦田理有 (76回生)

URL <http://tosakonclub.com/>

東京相談室 080-5010-5545
〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-17-21

「お子さんのお好きな本を教えてください、」
『はじめてののりものずかん』
「頑張れないときの力の抜き方または処方箋はありますか？」
和晃 ゴルフ。ベストスコアは87ですが、まだまだ上達できるはずと自分に言い聞かせ、妻にバレないように道具を買い替えています。沙織 土曜夜の晩酌。おつまみを作るのが好きで、授乳中もよくノンアルを飲んでいました。あとは、ノリノリのEDMを聞きながら家事をしています。



「家族や環境から教わった大事にしたい価値観は何ですか？」
和晃 これまで周囲の人に恵まれてきたことを強く実感しており、何事にも『感謝の気持ち』を忘れないように心掛けています。また高校野球部時代のハードな生活で鍛えられた『精神的なタフさ』は自身の支えであり、現在の仕事にも大いに活かされています。沙織 こどもに「大好き」「生まれてくれてありがとう」「お母さんの宝物」と言ってもらえることです。私自身も両親からこの言葉をたくさんもらいました。ありのままの自分を愛してくれる親の存在は、自己肯定感のある人間を育てると思うので。息子にもたくさん愛情表現をしていきたいです。



UIターンをお手伝いします。
転職・移住

気軽に
相談してよ♪

- Uターンしたくなったら
▶▶▶ 私たちにご相談ください。
- Uターン/リターン希望の方がいたら
▶▶▶ 私たちをご紹介ください。



一般社団法人
高知県移住促進・人材確保センター



厚生労働大臣許可番号
39-ム-300012

高知県、市町村、関係団体の43団体を社員とする一般社団法人です。無料職業紹介所として、高知県の企業と就職・転職希望者のマッチングをはじめ、UIターン希望者向け各種イベント、及び移住の際のサポートを行っています。

☎ 088-855-7748 ✉ jinzai@iju-jinzai.kochi.jp

東京オフィス
☎ 03-6206-1707

[開設時間] 10:00~18:00(平日)
東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル8F



セカンド
キャリアの
相談も
大歓迎!

高知で働きたい!を
応援します。

「高知求人ネット」

高知求人ネット



ご相談・ご紹介等、よろしくお願ひいたします。
高知県移住促進・人材確保センター

佃 和晃 83回生。
野球部に所属。関西学院大学商学部を卒業後、商社に就職。現在は営業職として中国自動車メーカーを担当。飛行機が大の苦手。
佃 沙織 (旧姓 宇賀) 83回生。
吹奏楽部に所属。千葉大学法経学部法学科を卒業後、一般企業の法務職として勤務。現在は育休取得中。
2人のプロフィール
土佐校時代からの純愛を实らせ・・・ではなく、2人が25歳の時に渋谷で開催されたプチ同窓会がきっかけとなり、翌2016年に入籍しました。東京で挙げた結婚式には土佐の同級生が大集合し、式場スタッフ曰く『前例のない大宴会』だったそうです(笑) 現在は、2020年1月に誕生した長男と東京で3人暮らしをしています。



橋から見る風景
水野孝さん(41回)のデザインを求めて

水野孝さん(41回)から設計に携わった橋のお話をお聞きするうちに、何気なく素通りしていた高知の橋をじっくり見てみたいと思いました。

戦後日本の橋は、渡ればいい時代から、強度を求めた時代へ、そして昭和50年頃からはデザイン性のある橋へ『用・強・美』を備える姿に育っていききました。水野さんが美を意識して設計した潮江橋や新月橋、月の瀬橋。時間を遊んでその橋を訪ね、『柱・照明器具・ベンチやバルコニーからの眺め』の三点を中心に眺めてみました。いつもの風景が懐かしく、そしてロマンティックに見えてきます。あなたも、朝夕のお散歩コースに鏡川を歩いてみませんか。



柔らかい緑色の照明
筆山が川面に写り込む

① 潮江橋



② 月の瀬橋



行きかう人の流れを止めない柱・バルコニー・照明

鏡川に青い空と筆山が映り込む



③ 新月橋



遊び心を感じる円形の丸柱とバルコニー



踊っているような動きのある照明

公共施設の設計などの評価は概して一般性がなく、たまに建築設計のコンペが話題になる程度で、土木施設の橋は地味な存在でした。お陰様で土佐高卒で藝大出の希少種ということもあり、高知県下でいい仕事を残させて頂いたことが今回へと繋がったわけです。後進たちに役立てば幸甚です。水野孝

寺子屋では三三九度で師弟の縁固め

—浮世絵を“読む”楽しさを論集に—

国際浮世絵学会理事 中城正堯(30回)

今年九月に、これまで国際浮世絵学会の研究誌などに執筆してきた論文を、『絵画史料による江戸子ども文化論集』として刊行した。ねらいは、江戸の子どもを描いた浮世絵には、知られざる学びや遊びなど生活実態が写し出されており、それを“読む”楽しさを味わって欲しいからである。



では、上図「風流てらこ吉書はじめけいこの図」を見ていただきたい。お正月の学習始めである。まず、注目して欲しいのは、机の配置だ。テレビなどの寺子屋場面では、多くが学校同様に教壇にむかって机を並べてある。しかし、一斉授業でなく、個人別学習であった寺子屋の絵図にそんな場面は全く見られない。

次に、右の4人の女性に注目いただきたい。手前の二人は、今日の新入門生と母である。その前には、三方が置かれ、奥に座る師匠の盃に酒がつがれている。新弟子を迎え、師弟の縁固めの三三九度を交わすところだ。この娘も、絵の左端の娘も、肩に襟袈裟(えりけさ)と呼ばれる美しい肩掛けを着けている。髪油で正月の晴れ着が汚れるのを防ぐと同時に、ファッションポイントでもあった。

寺子屋入門に際し、盃を交わすことは全国的で、土佐でも安芸の桂風堂や、種崎浦の寺子屋で「入門の際、師弟契約の盃をあげる」と言った記録が残されている。そして、弟子は終生師を敬い、結婚式などには主賓として招いた。

この浮世絵からは、女子も読み書きを習っていたことや、女師匠の存在もうかがえる。幕末に、世界一の識字率を支えた現場である。

図版「風流てらこ吉書はじめけいこの図」
歌川豊国 文化初期(1805、6年頃) 公文教育研究会蔵

(注) この論集をお読みにになりたい方は下記のURLにアクセスしてpdfを開き、ファイルを保存してお読み下さい。 <http://www.tosakpc.net/ukiyo.pdf>

本山大橋からの風景

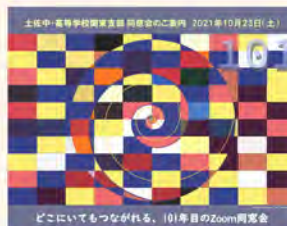


柱の文字は
本山出身の
野中兼山の筆跡を
集めたもの



本山町中心部から帰全山にわたる本山大橋も水野さんのデザイン。木製の欄干は自然の中に溶け込み、吉野川と白髪山をゆったり眺められる椅子がありました。

総会パンフレットのデザイン



今年の総会のパンフレット(上左)をデザインした水野さん。作成を依頼された水野さんは、すぐに高崎元尚先生の作品(上右/1962年頃)をオマージュすることを思いついたそうです。東京芸術大学を卒業後、土佐中・高等学校に勤務した高崎先生からは、少なからず影響を受けたのでしょう。尊敬の念を込めてパンフレットが作られました。2017年に94歳で亡くなられた先生の葬儀には、東京から駆けつけたとお聞きしています。

母校だより

学校長 小村 彰

やっと交換が終わりました

Zoomでの関東支部会では、録画による報告で申し訳ありませんでした。その中でお伝えしましたように、今年は修学旅行以外の行事は、やり方を変更しながらも、なんとか実施し、成果も収めつつあります。教職員のがんばり、生徒・保護者の皆さまの協力、そして卒業生の皆さまのご支援にそれぞれ心から感謝申し上げます。

そんな中で、今進行中なのが免震装置の不適合品の交換です。二〇〇九年に完成した免震構造の校舎その輝きに暗雲が垂れ込めたのは、二〇一五年春のことでした。装置に使われている部品を製造している会社の検査データの改ざんが発覚し、本校の装置にも一部不適合品が使われていることが判明しました。すぐに、設計・建設にあたった会社により、安全性に問題はないとの見解が出されましたが、マス・メディアでも大きく取り上げられ、学校は対応に苦慮しました。交換の体制が整うにつれ、高知県庁など他の施設では、適合品との交換工事が始まります。本校も工事を検討しますが、かなりの期間、授業や部活動に支障を来すとともに、一定期間は校舎内への立ち入りを禁止しなければならぬということなどで、百周年を目前に控えていたこともあり、それが終わって落ち着いてからということになり、動きは一旦止まりました。ところが、様子を見ていた二〇一八年秋、今度は同じく免震装置につかわれている別の部品にも、検査不適合品が使われていることが判明します。

さまざまな意見がある中で、学校の発展のために必要不可欠の思いで進められた新校舎建築。その

過程では、きびしい対立・争いもあり、しこりも残しました。それだけの犠牲を払ってつくられた校舎に、こんな問題が起こることに、強い憤りと情けなさを感じ、不適合品を納入した会社の担当者が来校し、話をしたとき、つい自然に涙声の訴えになっていました。

そんな過程を経て、百周年記念行事もほぼ終了した昨年、三種類合計一七基の部品を一気に交換する工事の計画案が出されました。当初の計画からは格段に進化し、学校の運営にはほとんど何の支障もなく、通常の授業をしながら交換が可能という案になっていました。結果的にはありませんが、工事を先延ばしにしたことで、大きな問題を回避することができるとなりました。

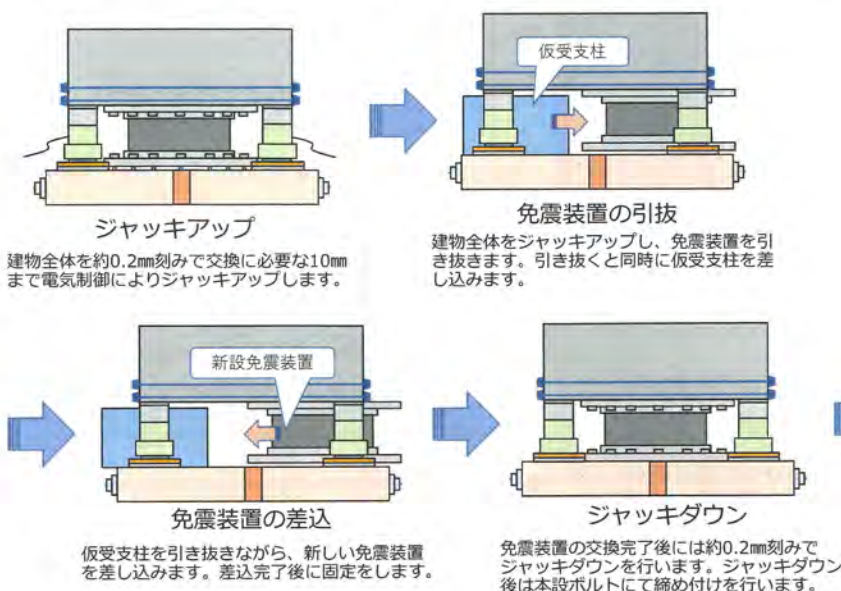
その計画に基づいて、今年春から工事を開始し、作業の容易な部品を先に交換し、この一〇月によりよメインの二種類の交換にかかりました。この作業は校舎全体を油圧ジャッキで一〇ミリほどもちあげて隙間をつくり、それを利用して装置を交換するというものです。書けば簡単ですが、この巨大校舎をわずかとはいえ、持ち上げるのですから、大変な作業です。

建設会社の誘いもあり、地下の免震ピットにはいつて、作業工程の一部を見学させてもらいました。一〇月二一日午後、梁や配管をくぐるために、かがんでは起きを繰り返し、校舎地下の交換の現場に入りました。午前中にジャッキアップが行われていたこともあり、私たちの到着を待って、すぐに部品交換が始まりました。四人の作業員がボルトを外した装置を引っ張ると、すべるように取り外されます。すぐに新しい装置をやはり滑らせて元の通りはめると、ボルトの締め付けです。ほんの五分足らずで、交換作業は終了。時間がかかるのは、それからで、ジャッキダウンして校舎を元の高さに戻します。動いているのは確認できませんが、五分たつと、確かに先ほどよりジャッキの隙間が狭くなっています。場所を移動して、二四六基ある油圧ジャッキを一覧できる

モニターのあるコントロールスペースで、数字を確認すると、なるほど最初に見たときよりも六ミリ下がっていました。

作業は着々と進んでいます。進化する技術力はもちろん、老体には堪える狭い空間でのかがんた姿勢での作業を続けている作業員の皆さんにも敬意があります。一月には、後片付けも含め全ての作業が終了する予定です。問題が発覚してから六年、ようやく区切りが付けられます。これを機に、次のステップに進むべく、準備を進めていきたいと思っています。卒業生の皆さまの変わらぬご支援をよろしく願います。

(二〇二二年一〇月二六日 記)



免震装置の交換手順

出版レーダー



塩田潮 (40回生)
「解剖 日本維新の会: 大阪発
「新型政党」の軌跡」
平凡社 2021.9
「危機の権力」
エムディエヌコーポレーション
2021.6



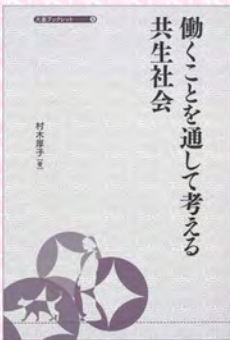
英保未来 (54回生)
(ペンネーム 大森望)
「ベストSF2021」
竹書房 2021.11



黒鉄ヒロシ (41回生)
「日本本」
小学館 2021.10



森岡浩 (55回生)
「47都道府県・高校野球百科」
丸善出版 2021.7



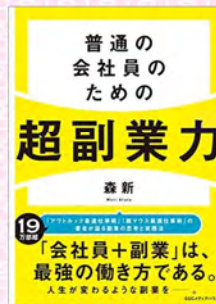
村木厚子 (49回生)
「働くことを通して考える 共生社会」
日本経済評論社 2021.8.



廣瀬裕子 (60回生)
(ペンネーム 高遠裕子; 翻訳)
「権力者と愚か者 FT編集長が
見た激動の15年」
日本経済新聞出版 2021.9



坂東真砂子 (51回生)
「恐怖 角川ホラー文庫
ベストセレクション」
KADOKAWA 2021.9



森新 (82回生)
「普通の会社員のための超副業力」
CCCメディアハウス 2021.8



門脇護 (53回生)
「なぜ女系天皇で
日本が減ぶのか」
ビジネス社 2021.6

私の一冊

須藤靖 (52回生)

「科学を語るとはということか。- 科学者、哲学者にモノ申す- 増補版」

河出書房新社

タイトルの通り、物理学者が哲学者に質問をする対談本。須藤先輩が哲学者に対して容赦ないコメントをしており、まったく穏やかな対談ではない。ヒヤヒヤしながら読み進めていた。本書は難解だが、お二人の主張を通して自身が文系的思考タイプか理系的思考タイプかを認識できるのではないのでしょうか。 遠藤瑞枝 (67回生)

